

すこやか

県民の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で
良質な全人的医療を提供します。

地方独立行政法人
岐阜県総合医療センターの理念

地方独立行政法人
岐阜県総合医療センターの基本方針

- 一、岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 二、科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 三、必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 四、地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 五、迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 六、医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。



独立行政法人岐阜県総合医療センターの使命

理事長兼院長 渡辺 佐知郎

平成19年4月1日より岐阜県総合医療センター院長を拝命し、平成22年4月1日より独立行政法人化に伴い理事長を兼任いたしました。昭和53年4月1日に33歳のとき本センターの前身旧県立岐阜病院へ循環器科兼第一内科医長として奉職させていただきました。光陰矢のごとしと申しますが、もう33年経過しました。その間皆様に大変お世話になってまいりましたが、これからも何卒よろしくご指導の程お願いいたします。

ご存知のように独立行政法人岐阜県総合医療センターは、平成22年4月1日、590床 職員840人（医師は研修医を含めて約160人、看護師は約480人）の新病院として再スタートいたしました。救急、小児医療、周産期、がんなどの政策医療も岐阜県を代表する基幹病院として行われなければならない重要な使命であります。岐阜県総合医療センターの特徴を述べますと、救命救急センター、基幹災害医療センター、エイズ拠点病院、地域がん診療拠点病院、岐阜県へき地医療支援機構、小児科救急医療拠点病院等に指定され、救命救急センター、母と子ども医療センター（周産期）、がん医療センター、女性医療センター、心臓血管センター、小児医療センター、新生児医療センターの7つのセンターを柱に「救命救急医療」「心臓血管疾患医療」「子ども医療」「がん医療」「女性医療」「周産期医療」を重点医療として、高度で先進的そして最善の医療を総合的に提供できるよう職員一同努力しています。

県民に信頼され、患者の立場に立ったより良い医療を提供するために、

人間性を大切にする医療

科学的根拠に基づいた医療の実践

効率的な病院運営

の3つの理念のもとに良質で安全な医療の提供と合理的な病院運営を目指しています。医療は国民の最大の関心事ですが、病院と患者の間には健康なときには気付かなかった深い河があることに病気になって初めて気付くことがあります。職員共にその溝を埋めていくのが理事長そして院長としての私の重要な役割であると常に認識しております。岐阜県総合医療センターは常に患者を守る病院でありたいと考えております。これからも心のごもった最善最新医療を提供する努力を続けることを職員一同皆様にお約束します。

連携医の紹介

川崎整形外科クリニック

川崎整形外科クリニック院長 川崎 浩史



岐阜県総合医療センターの先生方、コメディカルの皆様や近隣の開業医の先生方には日頃から大変お世話になっております。この場を借りまして深くお礼申し上げます。患者様の診察、検査、手術、時間外の受け入れなどいつも快諾くださり、誠に有り難うございます。

整形外科を受診される患者様の中には、他科疾患を合併されている方も少なくなく、整形外科の先生方のみならず、他科の先生方にもたびたびご教示を仰ぎ、まことに恐縮です。

当院は、平成10年11月に当時の県立岐阜病院の西約2km、名鉄田神駅北約200mの場所に開院いたしました。私の研究テーマであった関節疾患やリウマチ性疾患はもとより、脊椎疾患、骨粗鬆症、外傷、スポーツ障害、リハビリテーションなどにも積極的に取り組んできたつもりです。昨年は、開院10年を迎えたこともあり、クリニックの補強、改装工事を行い、診察室と点滴室の増設や、CR装置や超音波を導入して画像のデジタル化とともに、運動器の動的観察や四肢（とくに関節）の血流状態の観察が比較的短時間で、行えるようにしました。

また本年7月からは、原則院外処方としました。周辺の薬剤師さんとも密に連携して今まで以上に患者様にとって最適な薬剤の選択と十分な情報提供をめざしてまいります。

看護師は現在5名で、必要に応じて訪問看護も行っております。リハビリテーションスタッフは理学療法士3人、セラピスト3人の体制で、通院の困難な方には訪問リハビリテーションも行っております。病診連携で手術をお願いした方で、退院後に訪問リハを希望される場合、入院中から時々訪問させていただき本人とコミュニケーションをしっかりととり、リハの進み具合を把握していれば、退院後もスムーズに訪問リハに移行でき、このシステムのメリットを感じています。私の診療時間外の活動といたしましては、要請に応じて来院困難な方の往診に伺

たり、各種スポーツのメディカルチェックやマッチドクターをさせていただいたり、各種講演会、療養相談会などを開催したりしています。昨年は岐阜県総合医療センター整形外科の横井達夫先生をお招きして、長森コミュニティーセンターでリウマチ友の会主催の療養相談会を一緒に開かせていただきました。（今年も10月30日に開催予定）本年9月18日には、我々整形外科有志一同が立ち上げた会：岐阜整形外科エコーセミナー主催の整形外科領域の超音波診断についての講演会（講師：名古屋スポーツクリニック院長 杉本勝正先生）とエコーを使った実際のデモンストレーションが行われます。興味のある先生やコメディカルの方々もぜひご参加ください。（詳しくは日本整形外科学会か岐阜県医師会ホームページをご覧ください。）

個人的な趣味としましては、ジョギングで公道ランです。朝か夜が多いですが、時間が空いたら近辺を走っています。都合がつけば、岐阜市近郊で行われる市民マラソン大会には出場するようにしています。毎回Borg指数13、ATレベルの運動強度をめざして走っていますが、ついレベルダウンしてしまい、結果はなかなかついてきません。

皆様、今後とも宜しくご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。



診療科の紹介

皮膚科

皮膚科部長 前田 学

皮膚科外来は3人（前田 学、徳住正隆、山内朝子）で、各々1,2,3診を担当し、初診は火曜日と木曜日は前田、月曜と水曜は徳住が、金曜日は山内が各々業務をこなしております。それ以外の午前中はすべて再診に当たっておりますが、電子カルテ導入後、再診予約枠が常に満杯状態で、再診予約を取る際にも四苦八苦しているのが現状です。そのほか、採血や診療介助・再診枠変更などに看護師（山田、小椋）が従事しており再診の傍らで軟膏処置・足浴などを一手に引き受けて皮

膚科全般の業務に貢献していただいております。連日の初診と再診、さらに水曜日は午後診として学童・特殊外来を開催しています。月曜日と木曜日の午後は手術室での手術（全身麻酔や局所麻酔）、火曜日と金曜日午後は外来にて皮膚生検や小手術（電気メス使用含む）、特殊検査（皮内テストや貼付試験）などを行っております。アトピー性皮膚炎をはじめとする湿疹・皮膚炎をはじめ、各種良性腫瘍や悪性腫瘍などの皮膚科全般を網羅し、特に全身性強皮症・皮膚筋炎などの

膠原病患者をはじめ、シェーグレン症候群患者やベーチェット病患者などにもきめ細かに対応し、総合病院として、その一角を担っていると自負しております。さらには通常の白癬（いわゆる水虫）だけでなく、比較的まれな病原性真菌症（深在性真菌症、スポロトリコーシスなど）も手がけ、培養・同定も積極的に行って、研修医や専門医養成にも有益な体制を敷いているのも本皮膚科の特徴のひとつです。最近の特徴のひとつとして若手を中心に各病棟において褥瘡患者回診と処置を新規合格のWOCナースと共に行っていることも特筆に値します。昨年度より、褥瘡発生率が半減していますので、こうした地道な努力の成果が上がりつつあるようです。ですが、この数年間で4人体制から3人体制になってからはマンパワー不足により、各種業務の消化不良気味の感は否めず、光療法などに十分な時間を割くことができないのが悩みの種といったところです。

今回、当皮膚科の現状をご紹介します機会を得ましたので、

これを契機に今後とも益々日常診療に励む覚悟です。皆様方のご支援・ご鞭撻のほどをよろしくお願いたします。



皮膚科外来一同
左上から宇野受付女史、徳住医師（2診）、小椋看護師、
左下から山田看護師、前田医師（1診）、山内医師（3診）

産婦人科

副院長兼産婦人科部長 山田 新尚



婦人科領域においてはがんの治療に主眼をおいています。過去2年間で、子宮頸がんが約100例、子宮体がんが60例、卵巣がんが50例でありました。これらに対しては、臓器温存手術から超広汎手術まで広く対応しています。治療法の選択に当たっては、患者様の社会背景に配慮し、また患者様の希望をお聞きした上で、医学的根拠に基づいた治療法を提案し、最終的には患者様に治療法を選択して頂いております。手術適応がない場合には、抗癌剤と放射線治療を組み合わせたり、子宮動脈に直接抗癌剤を投与したりして、良好な治療成績を得ています。

もう一つの当科が担っている大きな使命は周産期医療であります。

岐阜・中濃、西濃、東濃、飛騨の各圏域を包括した周産期医療システムの中で平成20年2月に総合周産期母子医療センターをオープンしました。平成21年には合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、胎児異常等を含めた590件の分娩を取り扱いました。飛騨地区からのヘリコプターによる4件を含めた155件の母体搬送をうけいれることができました。今後も地域の皆様が安心して子どもを産み、育てることができるよう努力を続けることをお約束申し上げます。山田新尚（副院長兼部長）、横山康宏（女性医療センター部長・主任医長）、佐藤泰昌（漢方外来部長・医長）、牧野 弘、小野木京子、三和紀子、寺

澤恵子、志賀友美、田上慶子のスタッフで診療に当たっています。

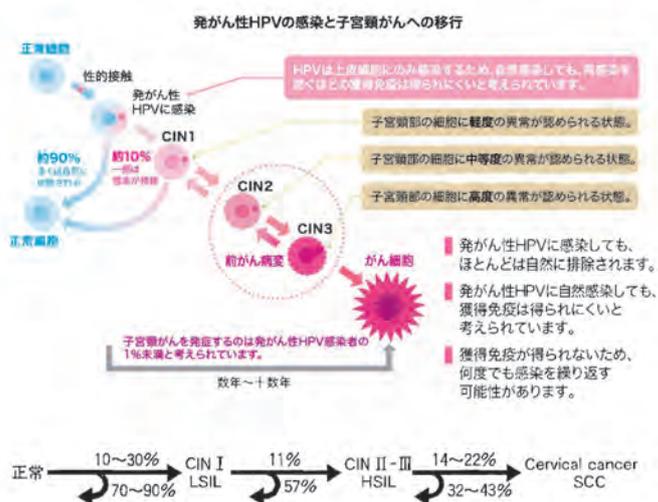
トピックス

発がん性HPV感染とワクチン

発がん性HPVの感染は、9割以上が一過性の感染で、自然に子宮頸部から消失すると考えられています。一部の人では持続感染が起こりますが、最終的に子宮頸がん発症に至るのはHPV感染した方の1%未満であると考えられています。

通常、発がん性HPVの感染から子宮頸がん発症までには数年から十数年かかるため、がんになるまでの前がん病変の段階で子宮頸がん検診により早期に発見することが可能です。

しかし、HPVに自然感染しても免疫は得られにくいと、感染の機会があれば、何度でも感染を繰り返します。したがって、抗体価を高めHPVの感染を防ぐためには、ワクチン接種が必要となるのです。



10月から地域医療連携センター長交代のお知らせ 直原修一センター長をよろしく



直原修一センター長

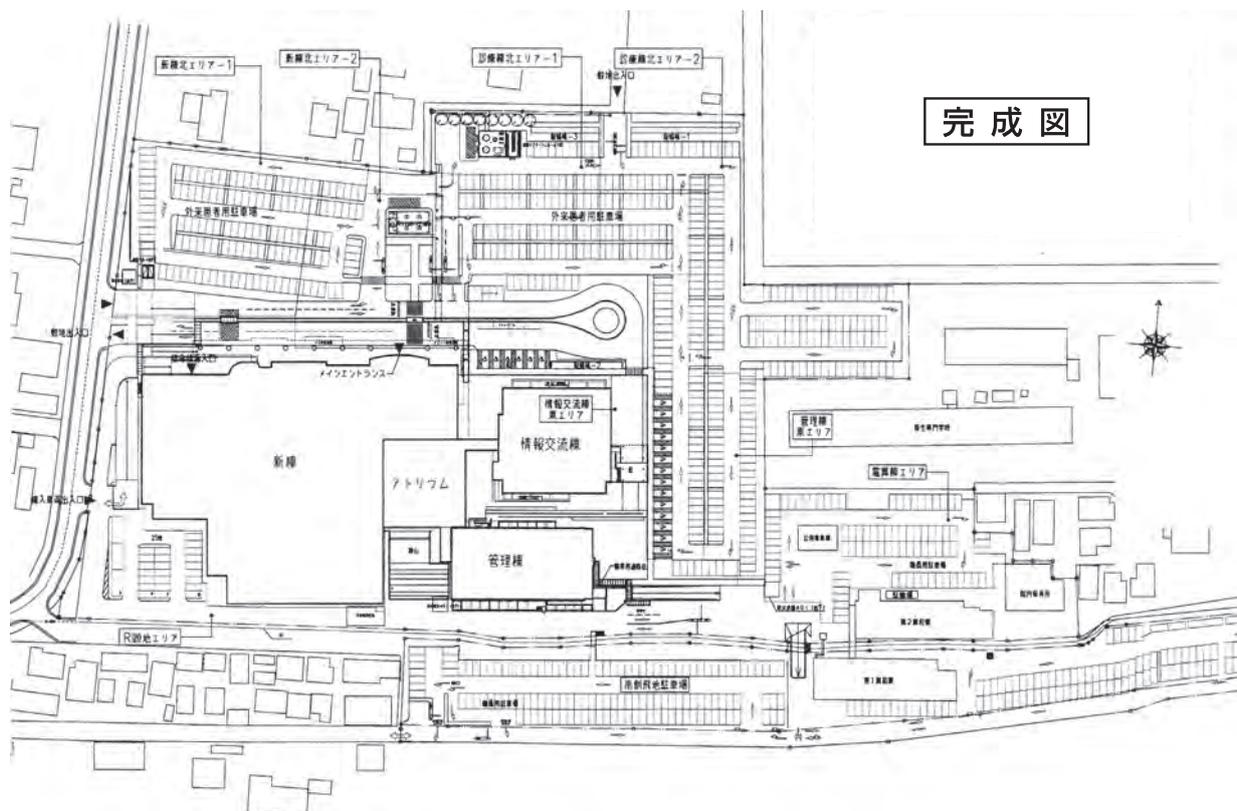
当院に病診連携室が発足して9年になりますが、当初から私(小林)をはじめ連携部門スタッフ共々大変お世話になり登録医の皆様には大変感謝申し上げます。特に、私は、当院に昭和48年赴任して以来37年7ヶ月間、医療連携はもちろんのこと、公私にわたり一方ならぬお世話になり心よりお礼申し上げます。9月末で退職し、後任には副院長兼眼科部長の直原修一先生が地域医療連携センター長になりますが、これからも今までと変わらず先生方の暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

地域医療連携センター・病診連携部・退院調整室 小林 成禎

工事のため駐車場が大変少なくなっており、申し訳ありません。

駐車場につきましては現在整備途中であり、22年度末にかけて旧病棟の解体工事や外構工事が続き、患者の皆様にはご迷惑をおかけしております。

今回の外構整備において、駐車場の拡張整備を行ってまいりますので、よろしくおい致します。



編集後記

岐阜県総合医療センター病診連携新聞第19号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしております。



地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター
〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
病診連携部直通 TEL (058) 249-0017
FAX (058) 248-9334
発行/岐阜県総合医療センター病診連携部